

A 6. ニーナさんに初めてエカテリンブルグで会った時は、非常に緊張されていて顔も硬直して引きつってたんですが、この度、大阪で再会してみて、「今回の日本の国の初めての訪問が、日本政府から招待されたという理解の仕方だったので、日本人であることが認められ確認されたと言うことで、全身にその喜びが充ち満ちていて、顔つきも非常に明るく本当に若返ったなー」という印象を受けした。

それにもまして嬉しかったのは、私の知人なども何処かで知って、それぞれに思い思いのプレゼントを持って駆け付けてきてくれたことです。特に、学生時代にお世話になった学生寮の事務担当だった浜崎英子さんという方が、妹さんの形見として大切に保存していた着物を一式プレゼントされた時には、両手を合わせて拜んで抱きついて喜ばれまして「自分は今迄こういうことをしてもらったことがない。どのように対応していいのか分からない」と言われた時には、私もジーンとくるものがありました。思わぬプレゼントを沢山もらって笑顔笑顔でしたが、しかし、一抹の不安は本当に自分が帰国するまでに、誰か現れてくれるだろうかということだったと思います。

それで、今後の活動について私は次の3点から肉親探しに協力していきたいと考えています。一つは、牡丹江に滞在した時の軍隊、この軍隊の所属部隊を突き止めることによって出身地が分かるのではないかと。二つ目は、開拓団という線も強いのでどの地方の開拓団だったかを追及して行きたい。三つ目は、1歳の誕生祝いの時に着せられていた着物や柄など、こういう習慣がどの地方にあったのか。これをファッション業界の方から追及して見たいと考えています。

最後に皆さんにお願いします。私も微力ながら全力を尽くして探し歩きますので、この放送をお聞きになった皆さん方も、それぞれの人脈を通してニーナさんの肉親探しにぜひご協力頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願いします。

3、後AN

今日は当事者ならでの貴重な話を沢山聞かせてくれてありがとう！

60歳を過ぎてやっと日本人として祖国日本を訪れることができたニーナさんの願いが、一日も早く適えられますようにと祈っています。

おわり

尚、放送時間の関係で本放送では主要な部分を抽出して編集しました。

副島 茂 記